

「育療」投稿規定（2025 年 12 月 20 日 一部改訂）

1. 本規程の対象論文及び投稿資格

ここでは、一般社団法人日本育療学会学会誌「育療」に掲載する査読付論文の投稿について規定する。本学会誌に掲載する論文、病気や障害のある子どもの健全育成を図るために、教育、医療、福祉、家族等に関するテーマによるものとする。投稿論文は、他の学術誌等に未発表のものであって、他雑誌(日本語、外国語を問わず)に発表された論文、あるいは発表予定の論文ではないことを要する(当誌掲載論文は、原則として日本語)。投稿資格は共著者も含め本学会正会員であることとする。

2. 倫理上の配慮

論文内容に関しては、十分な倫理上の配慮がなされていることが必要であり、適切に倫理基準を満たしている旨を論文中に明記する。所属施設、機関等の研究倫理審査委員会の承認を得ている場合は、その旨を記載する。

3. 利益相反(Conflict of Interest; COI)の開示について

研究の成果の発表は、著者らの業績になるだけでなく、読者らに影響を与える可能性がある。そのため、著者らは、研究の成果を発表する際には、その成果にバイアスがかかっているかを判断する材料となるよう利益相反の開示が求められる。投稿時に、利益相反についての記述を付記として表記する。以下、具体例を示す。

(1) 利益相反がない場合

- ・なお、本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。

(2) 開示すべき情報がある場合

- ・第1著者は、「企業名」から報酬を受領している。
- ・本研究は、著者が所属する「企業名」の研究費で実施された。

4. 論文の種類

本誌に掲載される査読付論文の種類は、原著論文、資料、総説・展望、実践研究とする。投稿者は論文の種類を指定すること。担当編集委員の審査によっては、論文の種類の変更を求める場合がある。

原著論文：理論的、実験的又は事例的な研究論文で独創性の高いもの

資 料：資料的価値のある論文

総説・展望：研究・調査論文の総括及び解説、または活動、政策、動向などについての提言

実践研究：実践を通してなされた研究論文で、実際的な問題の発明、解決を目的としたもの

5. 原稿のフォーマット・表記ルール

- (1) 原稿は、原則として文書作成ソフトウェアで作成する。
- (2) 論文原稿は、表紙、要約とキーワード、本文、文献、脚注、図表、英文要約、付記で構成する。表紙、要約とキーワード、本文、文献は必須である。
- (3) 用紙設定は、A4判を縦置きにして、横書きする。
- (4) 字数は、1ページ当たり32字×25行(800字)とする。
- (5) 表紙、要約とキーワード、本文、文献、脚注、図表、英文要約、付記を全て含め、原則25ページ以内とする(この分量で、刷り上がり原稿が約10ページとなる)。
- (6) 記述は平易で明瞭なものとし、現代仮名づかい、常用漢字、算用数字を用い、文末表現は常体を原則とする。

- (7) 文字の大きさは 10.5pt、日本語用のフォントを MS 明朝、英数字用のフォントを Century に設定する。
- (8) 本文の句読点には、“、” (テン)と“。” (マル)を使用する。状況に応じて(テン)の代わりに(カンマ)も使用することができるが、1 論文内では、“、” (テン)、“,” (カンマ)のどちらかに統一する。引用・参考文献の句読点は、後述の「9. 引用・参考文献」に従う。英文は、“,” (カンマ)と“.” (ピリオド)を使用する。
- (9) カタカナは、原則として日本語化した外国語を記述するときのみ用いる。
- (10) 本文中の外国語の使用はできるだけ避け、外国人名、適切な日本語訳のない学術用語は、書物や心理検査等のみ用いる。
- (11) 略語は一般に用いられているものに限り、必要な場合には、初出時にその旨を明記する。
- (12) 計量単位は原則として、mg、g、kg、ml、dl、l、mm、cm、m 等と表記する。
- (13) 原稿の上・下・左・右に 30mm 以上の余白をとる。
- (14) ページ番号を原稿の下部 (フッター) 中央に記す。

6. 表紙・表題

- (1) 表紙には、論文の種類、表題、著者氏名(共著者含む)、所属、英文表題、英文著者氏名を記したものを A4 判 1 枚にまとめる。
- (2) 表題は、論文の主な内容を簡潔に要約したもので、研究の対象、研究で取り上げた変数あるいは理論と、それらの間の関係の記述が含まれているのが望ましい。副題を付ける場合は、本題の後に“－副題－”と書く。

7. 要約とキーワード

- (1) 論文の概要が把握できる日本語の要約を 400 字以内で記す。日本語要約の最後に、改行してから 3～5 個のキーワードを“キーワード: ”に続けて記す。キーワードとキーワードの間は、全角 1 文字分空ける。日本語の要約とキーワードを A4 判 1 枚にまとめる。
- (2) 可能な限り、英文要約を文末に 300 語以内で、Key word を 3～5 個記載することが望ましい。英文要約は、投稿する前に、論文内容の専門性に精通したネイティブスピーカー(あるいはそれに相当する者)の校閲を受ける。これらを A4 判 1 枚にまとめる。

8. 本文の見出し

- (1) 論文で使える見出しは、大見出し(I、II、III…)、中見出し(1、2、3…)、小見出し((1)(2)、(3)…)の3種類とする。
- (2) 見出しは、日本語用のフォントを MS ゴシック、英数字用のフォントを Arial に設定する。
- (3) 大見出しの文字の大きさは 12pt、それ以外は 10.5pt とする。
- (4) 大見出しは、上に 1 行あけて左寄せで書く。
- (5) 中見出しは左寄せで書き、改行して本文を書き始める。
- (6) 小見出しは左寄せで 1 字下げて書き、本文は同じ行に全角の空白を空けて書き始める。

9. 引用・参考文献

文中の引用・参考文献には引用順に右肩に番号を記し、末尾の引用・参考文献欄に番号順に記す。引用・参考文献は、本文に続けて記載する。記載方法は以下のとおりとする。

- (1) 雑誌の場合：
著者名(共著者名もすべて記載する)(発行年). 表題. 雑誌名, 巻(号), 開始頁 - 終了頁.
- (2) a) 単行本の場合：
著者名(共著者名もすべて記載する)(発行年). 表題(版数). 引用開始頁 - 引用終了頁.

発行元.

b) 編著者の分担執筆部分等の場合：

分担執筆著者名(発行年). 分担執筆部分の表題. 編集者名(編), 書籍名(版数). 引用開始頁 - 引用終了頁. 発行元.

c) 訳書の場合：

原著者名(原書発行年). 原書名. 訳者名(訳)(訳書発行年). 訳書名(版数), 引用開始頁・引用終了頁(必要な場合). 発行元.

日本語雑誌の場合：

小林一郎. 島津二郎. 坂本三郎(2015). 病弱児の心理的ストレス. ○研究学会誌. 20. 317-323.

外国語雑誌の場合：

Dawson, P., Johnson, J., & Johns, N. (2018). Effect of coping for stressors on stress responses in patient, Journal of Ikuryo, 10, 25-32.

日本語単行本の場合：

草野四郎(2020). 病弱児の心理的支援(第5版). 170-180. ○出版.

外国語単行本の場合：

Brown, J. & Reid, G. J. (2017). Development and children with kidney disease. 162-156.

日本語編著書の一章の場合：

奥田五郎(2021). 病弱教育におけるコーディネーター. 大沼六郎(編), 特別支援教育と病弱(初版). 110-135. ○出版.

外国語編集書の一章の場合：

Rutter, E. (2016). Disease and illness and Sickness. Evails, M., & Mundy, P. (Ed), Handbook of anxiety of children with chronic diseases(pp.15-87). Ikuryo Press.

訳書の場合：

Night, L. & James, W. (2016). Education and medical cooperation for children with cancer. Ikuryo Press, 田中六子(監訳)(2020). がんの子どものための教育と医療の協働(第2版). 教医出版.

(3) ネット文献の扱い：

著者名(発行年). Web ページの題名. Web サイトの名称(著者名と同じ場合は省略してもよい). 更新日付, <入手先 URL>, (参照日付).

日本語の場合：

岡直樹(2014). 病弱者への教育的支援における今後の課題. 病気の子どもと教育 Q&A (更新 2003-02-24). <http://www.kyoiku.ac.jp/tokubetsu>, (参照 2020-10-08).

欧文の場合：

Ikuryo University Hospital (2019). Pediatrics & Children Q&A. (update 2019-11-30), <<http://www.kyoiku.ac.jp/tokubetsu>>, (accessed 2020-08-07).

10. 図表

- (1) 図表は1ページにつき1点ずつ、明瞭に印刷できるように作成する。縮小されても情報が読み取れるものとする。
- (2) 図表のタイトルは、図 1、表 1 と書き、それに続けて、全角の空白を空けてタイトルを書く。
- (3) 図のタイトルは図の下に表のタイトルは表の上に記載する。キャプション(図表に添える

説明文)は、図表の下に記載する。

- (4) 図表は、本文を読まなくても十分に理解できるように、必要最小限度の節潔なキャプションを付けるのが望ましい。略語や略記号を使用する場合は、キャプション内に明示する。
- (5) 表は罫線を少なくして見やすく作成する。特に縦の罫線は、必要時以外は用いない。
- (6) 本文中に図表のおよその挿入位置を本文の右位置に明示する。
- (7) 図表は、本文の説明を補完するものとし、必要最小限にとどめる。

11. 掲載費用

印刷等に要した費用は、原則として当分の間本学会が負担とする。ただし、別刷を希望する場合は、希望部数を申し出ること（印刷・送付費用は著者負担）。

12. 著作権

本学会誌掲載の著者物の著作権は、本学会に帰属するものとする。

13. 提出方法

- (1) 提出物:
投稿時の提出物は、投稿する論文原稿(オリジナル)、投稿する論文原稿(査読用)、連絡票、チェックリストの4点である。これらはすべて PDF ファイルに変換すること。
- (2) 原稿の並べ方:
投稿する論文原稿は、表紙、要約とキーワード、本文、文献、脚注、図表、英文要約、付記の順に並べて、1つのPDFファイルにまとめる。
- (3) 投稿する論文原稿(査読用)の作成:
投稿する論文原稿はオリジナルと査読用の2種類のデジタルデータが必要である。査読用とは、オリジナルの原稿から著者や著者の所属などを特定する情報をアスタリスク(*)に置き換えた原稿とする。表紙の著者名や所属、倫理的配慮や謝辞の記述などに注意すること。
- (4) 投稿する論文原稿のファイル名:
デジタルデータには、筆頭著者名(投稿年)原稿の内容(オリジナルか査読用か)が分かるようにファイル名を記す(例:育療太郎(2025)査読用)。
- (5) 連絡票:
論文の種類、論文のタイトル、投稿者氏名、郵便番号、住所、電話番号、E-mail アドレス、および希望する連絡先を記した連絡票を作成する。連絡票の書式には指定を設けていない。必要な情報を漏れなく、記載すること。
- (6) チェックリスト:
学会HPからチェックリストのフォーマット(Excelファイル)をダウンロードし、投稿規定に合致した原稿を作成できているか確認する。全ての項目に問題がないことを確認してから、投稿すること。
- (7) 送付方法:
提出物4点のPDFファイルをE-mailに添付して提出する。提出から1週間経っても「受付」通知メールがない場合は、メールトラブル等の可能性も考えられるため、必ず問い合わせること。

投稿・連絡・問合せ窓口

「育療」編集部

メールアドレス journal.ikuryo@gmail.com

(2025 年 12 月 20 日改訂，2026 年 1 月 1 日から実施)